中濃農林事務所の普及活動状況　令和５年６月 25 日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■岐阜県女性農業経営アドバイザー　中濃ブロック全体会開催支援

岐阜県女性農業経営アドバイザー中濃ブロックの全体会が6月19日に中濃総合庁舎で開催され、武儀地区の会員も参加した。

当日は今年度の活動計画等が話し合われ、アドバイザー相互の交流が図られるよう活発な意見交換が行われた。また、昨年度自主研修に参加した会員から、研修での成果や今後の活動への提案などが発表され、より活発な会員活動方針を考える良い機会となった。

農業普及課では、今後も引き続きアドバイザーの自主的な組織活動への支援を行っていく。（地域支援係）

【自主研修成果発表会】

■研修生　新規就農者集合研修始まる

６月２日、ＪＡめぐみの主催による「新規就農者集合研修」の第１回講義がＪＡめぐみの本店で開催され、中濃管内４名を含む 20 名の研修生、新規就農者が出席した。

本研修は､研修拠点等による実践研修を補完する知識や技術の習得を目的に開催されており、全 15 回の開催が計画されている。

今回の講義では、「就農支援制度・就農計画」について、ＪＡめぐみのと役割分担しながら講義を行い､就農準備の大切さについて説明した。

また、６月 16 日、23 日には「土壌・肥料」の講義が開催され、農業普及課も出席し、開催を支援した。

農業普及課では、研修生の知識・技術習得および就農準備について、関係機関と連携しながら推進していく。（地域支援係）

【研修会】

■円空さといも　第2回就農塾（さといもコース）開催

6月19日、関市内のさといも担い手ほ場において、ＪＡめぐみのが主催する就農塾（さといもコース）が開催された。

今回はさといものダツかきについて研修が行われ、さといも生産者やＪＡめぐみの、農業普及課が講師となり、ダツかきを行う必要性や作業手順についての説明を行った。受講生は熱心に説明を聞いた後、実際にダツかき作業を行った。

農業普及課では、今後も就農塾の支援を行い、新規就農を目指す受講生がスムーズに就農できるよう支援していく。（地域支援係）

【ダツかきの説明】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲　生育調査

中濃農林事務所では、水稲にて品種や肥料の実証ほ等 31 ヶ所を生育調査地点として設定した。

６月 13・16 日、水稲生育調査が本格的に始まり、草丈、茎数、葉色の生育調査をＪＡめぐみの、ＪＡ全農岐阜と連携して実施した。今年も例年通りの時期に田植えが行われ､概ね順調に生育していることが確認できた。

農業普及課では、水稲の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。（地域支援係）

【ほしじるし原種ほ場】

■小麦　収穫

中濃農林事務所管内では、小麦「さとのそら」が約 220ha 作付けされてており、農業普及課ではＪＡめぐみのと連携し、生産者ごとの成熟期や穀物水分等を確認しながら、適期収穫の指導を行い、6 月 5 日から収穫が開始された。

また生育期間を通じ、ＪＡ・全農と連携して実証ほ等 12 ヶ所を生育調査してきた。6 月上旬に成熟期を迎え、5 月 31 日に成熟期調査を行い、穂長・稈長・茎数を測定した。また坪刈り、脱穀調製を行い、収量・品質調査等を行った。

農業普及課では、小麦の収量・品質を確保するため、実証ほの設置等を通じて栽培技術の確立を図っていく。　（地域支援係）

【成熟期の小麦ほ場】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋なす　目揃会

6 月 19 日に中濃夏秋茄子生産出荷組合目揃会が、ＪＡめぐみの下有知集荷選果場にて開催された。17 名の組合員及び選果場選果作業員が出席し、選別基準や市場情勢についての報告を受けた。

農業普及課からは、収穫期からの管理について栽培の指導を行い、病害虫の発生や体調管理等について十分留意するよう伝えた。また、今年度組合にて硝酸イオンメーターを整備し、生産者自ら葉柄の硝酸を測定する体制としたことを踏まえ、硝酸測定を実演しながら、測定方法を指導した。

農業普及課では、今後は新規栽培者を重点的に巡回指導等を行い、夏秋なすの収量・品質の向上を支援していく。　（地域支援係）

【目揃会での栽培研修】

■さつまいも　コガネムシフェロモントラップの設置

中濃管内では、新たな産地づくりの取り組みとして、平成30年度よりさつまいも栽培に取り組んでいる。単収向上が課題の中、コガネムシ等の病害虫対策に取り組んでいる。

5月26日に、農業経営課の支援を受けて、さつまいも圃場にコガネムシのフェロモントラップ（ヒメコガネ、マメコガネ、ドウガネブイブイ）を設置した。成虫の飛来状況を確認することで、防除適期を判断することを目的とし、経時的に捕獲頭数を確認していく。6月7日の調査では、いずれのトラップでもコガネムシが捕獲され、栽培初期から飛来していることが確認された。また、収穫期には掘り取り調査も行い、コガネムシ類幼虫の生息数、齢期を調査する予定である。（地域支援係）

【設置したトラップ】

■キウイフルーツ　有機質施肥体系の実証

ほらどキウイフルーツ生産部会では、みどりの食料システム戦略推進交付金を活用し、有機質肥料による施肥体系の確立を目指している。

農業普及課では、慣行の化学肥料主体の施肥体系から切り替えるための有機質肥料の実証圃を設置し、作業性や費用、キウイフルーツの品質に与える影響を確認している。

6 月は追肥時期にあたり、実証区、慣行区ともに追肥作業が実施された。実証区は慣行区の 2 倍程度の施肥量となったが、サンパーを用いた施肥作業では、作業の負担を指摘する意見はなかった。

農業普及課は、収穫期の品質調査等の結果を踏まえ、関係者の意見を調整しながら、ほらどキウイフルーツの有機質肥料体系を推進していく。　（地域支援係）

【施肥作業】